



萩野 幸弘 議員  
(躍進とおの)

一問一答方式

# 一次産業の現状と六次産業化の推進状況は

問……………

本市の産業別生産額と一次産業の占める割合は。

答……………

平成24年度の数値だが、一次産業が28億円で3.8%、二次産業が262億円で36%、三次産業が447億円で60%、合計737億円となっている。

問……………

市農林水産振興ビジョン(タフ・ビジョン)の今後の方向性や数値目標

答……………

一次産業の振興、更には六次産業化につなげようという意気込みで、関係者一丸となって取り組んできた。今後より良い連携のため組織をどのようにすれば一番望ましいのか現在検討を進めている最中だ。

答……………

新たに平成28年度から5カ年の計画を策定する。特に耕畜連携強化、六次産業推進、担い手育成、農地の利用集積等に力点を置いた計画としたい。

問……………

六次産業化に伴う販路確保対策は。また、海外輸出を視野に入れる必要性は。

答……………

作っても売れなくては意味がなく、販路確保は重要だ。ふるさと公社の機能を十分發揮させるほか、海外輸出も含め、広い視野を持つて対策を講じていきたい。

# 遠野らしい景観形成で交流人口の拡大を

問……………

市政を運営する上で、遠野らしい景観の定義をどのようにとらえているのか。

答……………

「自然景観」「農村景観」「都市景観」の3つの領域に区分している。

問……………

遠野らしい景観を維持し、交流人口拡大につなげ、まちを活性化することも必要と考える。来年開催のいわて国体会場としてのおも

策は。てなしにかかる景観対策は。

答……………

市民総参加でのクリンアップ活動や、国体推奨花を植えたプランター装飾等でお迎えしたい。

問……………

防犯灯等のLED化事業に合わせ、発光色を琥珀色に統一する等、考えては。

答……………

まちづくりの一環としてとらえ、検討したい。



遠野らしい景観で交流人口拡大を(写真は宮守町の寺沢高原)

# 医療保険改革法に対する市長の見解は

問……………

今後の医療制度を根本的に転換させるといわれる医療保険改革法案が成立したが国民の理解を得て成立した制度改革とはいえない。特に国保の市町村運営から都道府県への移行は多くの問題を抱えており自治体の理解を得たものとは言い難い。この法案成立による遠野市への影響をどのように捉えているの

か、市長の見解をうかがう。

答……………

国民健康保険は国民皆保険制度の基礎として、市民の医療受診機会の確保と健康の保持・増進に寄与してきた。しかし、市町村の運営努力による制度維持は限界に達しており、遠野市も実質単年度収支がマイナスであり、赤字保険者に分類されている状況であ

る。安定した財政運営で制度を維持するためには保険者の都道府県化は避けられないものと理解している。

# 農業委員会法改正案に対する農業委員会会長の見解は

問……………

農業委員の公選制の廃止や、法に基づく業務の一つである行政に対する建議・諮問・意見具申を除外するなど内容をとする農業委員会法改正法案が今国会で審議されている。この問題は農地の権利に関わる権限を持つ農業委員会のあり方を根本的に変える重大な問題である。農業委員会会長の見解をうかがう。

答……………

農業委員会は、これ



農業委員会による農地パトロール

までも時代の変化に対応しつつ独立した行政委員会として、「土地と人」対策を通じて地域農業の維持・発展に取り組んできた。新制度への移行については現行農業委員の任期満了後となる経過措置が設けられる予定である。全国農業委員会系統組織が総力を挙げて、改正法に係る農業・農村現場における円滑な運用に向け国に対し要請を行ってゆく。



小松 大成 議員  
(無会派)

一括質問方式

【その他の質問】

○「安全保障関連法案」に対する市長の見解について